

本の情報	内容
<p>『うがいライオン』</p> <p>ねじめ正一作 長谷川義史絵 鈴木出版 2010.7</p> <p>1110017418</p>	<p>どうぶつえんのライオンは、いつもライオンらしくきばをむき、つよそうに見せていました。けれど、たまにはおきゃくさんをわらわせてみたくなり、わざとすべって、すってんころりん！でも、あしこしが弱っていると思われるのはいや。やっぱりライオンらしくしていようと思いなおし、「ガオー！」とほえつづけていたら…。</p>
<p>『エイモスさんががぜをひくと』</p> <p>フィリップ・C.ステッド文 エリン・E.ステッド絵 青山南訳 光村教育図書 2010.7</p> <p>1110025616</p>	<p>エイモスさんは動物園で働いています。やることがたくさんあっても、時間をつくって友だちの動物たちのところをまわります。ソウとチェスをし、カメとかけっこをし、はずかしがりやのペンギンには静かにそばにすわってやり…。エイモスさんががぜで仕事を休んだ日、心配になった動物たちは、エイモスさんの様子を見に行くことにします。</p>
<p>『地球のかたちを哲学する』</p> <p>ギョーム・デュプラ文・絵 博多かおる訳 西村書店 2010.6</p> <p>1110009274</p>	<p>今では、私たちは、地球は球形であることを知っています。子どもの頃からそう教えられ、宇宙から届く映像で確かめることもできます。それでは、昔の人たちは、地球がどんな形をしているかと思っていたのでしょうか。この本では昔の人たちが想像したいろいろな地球の姿と地球が球形であるという考えに至るまでの移りかわりを仕掛けも使ってわかりやすく紹介しています。</p>
<p>『てんぐのきのかくれが』</p> <p>青山邦彦作・絵 教育画劇 2010.5</p> <p>1109928113</p>	<p>しゅんくんが、うらやまの大きな木に、かくれ家を作ろうとしていると、「なにをやっとる！」と怖い顔をした天狗が現れました。しゅんくんからわけを聞いた天狗は、カラス天狗を呼び出して、あつという間にかくれ家を作ってしまう。もっと作りたくなった天狗が、「あつまれー！」と怒鳴ると、山のあちらこちらから、おばけやようかいが集まってきました。</p>
<p>『ぼくが一番望むこと』</p> <p>マリー・ブラッドビー文 クリス・K.スーンピート絵 齊藤規訳 新日本出版社 2010.7</p> <p>1110021724</p>	<p>アメリカの黒人教育家ブッカー・T.ワシントン(1856-1915)の少年時代を描いた絵本。ブッカーは、まだ9歳ですが、毎日塩をたるに詰めるというきつい仕事をしていました。そんな彼の望みは、字が読めるようになること。黒人はもう奴隷ではありません。本を読むことも自由のはず。ママに思いを伝えると、ある日、青い表紙の小さな本を手渡してくれました。</p>
<p>マグナス・マクシマス、なんでもはかります</p> <p>キャスリーン・T.ペリー文 S.D.シンドラー絵 福本友美子訳 光村教育図書 2010.7</p> <p>1110025572</p>	<p>マグナス・マクシマスは、はかることが大好きなおじいさん。ウエスト周りや背丈はもちろん、しめりぐあいやかわきぐあいまでなんでもはかります。数えることも大好きで、朝から晩まではかたり数えたりで大忙し。ある日めがねを割ってしまい、することがなくなったマグナスさん。波でも数えようと向かった浜辺で、小さな男の子と出会ったことから、マグナスさんはかわりはじめます。</p>